

令和7年度第1回景観分科会 会議資料

日時・場所：

R7年5月9日（金）19時～約90分、川地コミュニティ 図書室

出席者：

専門委員（児玉政則氏、玉岡貴司氏、鯉谷幸司氏）

自治会役員（末國富雄、長岡憲治、中野優子、川本正勝、竹野真人）

議事次第：

1. 挨拶を兼ねて会議内容と成果の説明（自治会長）
「景観分科会とは」、「景観分科会の取組み」などについて説明し、
第1回での期待する成果を提示（事務局）、その後に質疑
2. 景観分科会が取り組む課題の選定
 - ①「別紙」の事務局案を説明（分科会事務局）
 - ②参加者が自由に発言して課題をたくさん出す。
3. 課題の選定と内容の絞り込み
 - ①景観分科会として、今年あるいは今後取り組むべき課題を選定
 - ②課題の予算化や必要な情報（手続きや交渉相手など）について意見交換
 - ③その他
4. 検討結果の整理
 - ①検討結果から自治活動支援交付金取得に向けて予算化する項目を整理
 - ②第2回分科会（5月26日）に向けた課題を整理
 - ・専門委員に持ち帰って情報収集なりをしてもらう事項
 - ・事務局側が行う作業の明確化
5. 閉会あいさつ（長岡副会長）

R7年度 景観分科会活動計画の素案

～ 5月9日会合でのタタキ台 ～

景観分科会とは

中の村自治会は、R6年度に三次市自治活動支援交付金を取得して広報、防災、景観の3つの分科会を作りました。広報分科会では「中の村自治会ブログ」を稼働させ自治会通信も2か月に1回発行しました。防災分科会はR7年度末に「中の村防災の手引き」を作成するため5人の専門委員をお願いして検討を進めています。

景観分科会は、R6年度は川地葉ボタン市に参加して焼き芋の製造やイルミネーション点灯式を行っただけでした。自治会役員が忙しく手が回らなかったのが原因です。今年は次のような考えで中の村地域の振興を図ることを考えています。

景観分科会の取組み : 10年先の中の村の姿を想像し ～ いま手を着ける

高齢化と人口減はどこも同じです。中の村地区はJA支店やAコープ、郵便局、JR駅が立地する川地の中心地です。この中の村の10年先に“こうありたい”という姿を想像したとき、そのために“いま手を着けるべきこと”が多くあるのではないのでしょうか。

第1回景観分科会では、専門委員3人に自治会役員も参加して、“10年先の姿”や“いま手を着けるべきこと”をできるだけ多く提案してもらいます。そうして2週間後の第2回分科会で、提案を土台に作った三次市自治活動支援交付金の予算要求書を検討し承認してもらいます。予算が付いた後の実行は、基本的には自治会役員が担います。第3回以降の分科会は、専門委員さんや自治会役員さんから要望があれば開くことにします。

専門委員

児玉政則氏（駅組）：分科会座長、長く中の村を見てきた人、中の村の風景や仕来たり
玉岡貴司氏（木舟）：中の村地域唯一のくくり毘獵者、Uターン居住者
鯉谷幸司氏（駅組）：建築業、施設の設計や見積り

第1回景観分科会

日時：5月9日（金）19時～、90分程度、川地コミュニティ図書室

参集範囲：専門委員、自治会役員

検討内容：別紙（未定稿）をタタキ台にして中の村地区の“10年先の姿”や“いま手を着けるべきこと”をできるだけ多く提案し、かつ意見交換する。

第2回景観分科会

日時：5月26日（月）19時～、90分程度、川地コミュニティ図書室

参集範囲：専門委員、自治会役員

検討内容：第1回での提案から作った自治活動支援交付金予算要求書の内容、要求書に含まれない提案内容の取扱いの検討と決定をする。

予算要求書の取扱い

景観分科会の予算案は、自治活動支援交付金の主な構成要素で、他の分科会の分と合わせて提出します。連合自治会の5月理事会（5月20日開催）に各自治会から素案を出して、6月理事会（6月17日開催）で承認されたら、以後の予算執行が可能になる。

別紙 中の村地区の“10年先の姿”や“いま手を着けるべきこと”の例

1. パーク&ライドのための志和地駅駐車スペース整備

パーク&ライドとは、駅に駐車して芸備線を利用してもらうこと。駅周辺での駐車スペースの確保がポイントで、現状は2～3台が利用。そばに未利用地があるので整備して駐車可能台数を増やす。

残土などが放置されて
草が生えている。



- ・何台駐車できるようになるか？
- ・残土の撤去費用は？
- ・土地の権利関係は？

2. バス停に屋根とベンチ

バス利用者は車を運転しない人で高齢者も多いと思う。ここに屋根とベンチを置けば利用者にとっては有難いことだろう。

バス停



- ・鉄骨スレート葺きの屋根の工事費は？
- ・ベンチはいくらするのか？
- ・設置するには誰の許可が必要なのだろう？

3. 桜土手の捕植

土手の改修工事で桜が伐採され、桜並木になっていない。ただし、同じ場所に桜を植えても発育は良くないと言われる。桜色のハナミズキを植えたらどうか。

また、駅周辺にも桜並木があり、昔は駅構内の植栽の整備にも手を着けていた。撮り鉄が集まるなか、どこをどう整備していくのか。



- ・苗木の値段は？
- ・どこに植えるか？
- ・どういう計画を立てて住民の理解と作業への賛同を得るか？

4. 中の村の有名人に話をしてもらう

重信先生（川地の医者として思うこと）、深水住職（志和地の菩提寺）、一場代表取締役（木工品を創りだすこと）、他に誰か

- ・講師には謝金を払い、お茶を用意して講演のあとで話をする時間を設ける。
- ・うまい進行役を用意するのがポイント、誰かいないか？

5. 川地葉ボタン市への参加

中の村で開かれるので自治会が参加するのは当たり前で、去年は石焼き芋（蒸気機関車風の焼き芋機）、子ども神楽奉納、イルミネーション点灯式を行った。R7年も同じ行事で参加する予定です。

- ・開催日は12月14日（日）。日曜はAコープが休みだが、盛り上げには開店してもらった方が良さし売り上げも増加するはず。よって、開くよう交渉したらどうか。

6. 市鳥獣被害対策集落支援事業への参画

自治会が事業実施主体として市に申請する。補助対象は、防護資材、Webカメラ、狩猟免許習得費用、箱ワナ購入費、リーダー研修参加費、環境改善（草刈り）費用、ジビエ利活用事業など計75万円が上限。多面的中の村支部と連携すれば会合などの日当が出せる。

- ・狩猟者に活動しやすく（中の村全域を対象に）、また狩猟免許者を増やしたい。
- ・止め刺し（ワナにかかった獣の殺処分、保定役が必要）の要員確保
- ・獣肉の利用も考えられるか？

7. その他に何かないか？

（以上）